

浄心寺だより

発行

浄心寺門信徒会

郵便番号 714-0081

笠岡市笠岡 2065

電話 (0865) 62-2623

FAX (0865) 62-2595

振替 01260-9-13760

<http://joshinji.suki-ari.net/>



「み法を味わって」(三)

おかげに気づく

この一年、心から感謝することがありましたか。あったといえる人には、すばらしい一年でした。もし、無いのなら、その原因は条件が悪かったのか、感謝すべきものを見つける力がなかったのか、感謝する心がなかったのか考えてみましょう。

賽とはお礼参りするという文字ですから、お賽銭とはこれまでのおかげに感謝して供えるものなのに、そのおかげに気づかずこれからの勝手な要求の手付金のつもりでいる人があります。

せっかく人間に生まれながら、阿弥陀如来のお慈悲に気づかず人生を終わるなら、宝の山に入ってむなしく帰るようなものです。この一年をふりかえり、感謝しながら、来年こそもっとお寺で聴聞して、おかげに気づく心を育てられ、強く明るく生き抜いて、御恩報謝に尽くしたいと願うことです。

鷹谷俊昭著『月ごとのことば』転載

ご案内

十二月七日(土) 十三時半より

報恩講

ご法話 福山市神辺町 教専寺 苅屋光影師

法宝物虫干し法座

当山の法宝物虫干し法座が七月十七日十三時半より勤まりました。当寺に伝わる宝法物が経蔵より出され、本堂内に開陳されました。

『讃仏偈』をお勤めの後、三原市大和町大草の徳正寺、徳正俊平先生のご法話を拝聴しました。徳正寺は浄心寺との遠縁にあたり、先生は北海道から養子として来られて活躍されています。

北海道で同窓会を開いたとき、今広島で僧侶をしていると言うと、みんなから質問攻めにあったそう



秋季彼岸会および
永代経法要

九月二十五日(水)午後一時半より、さわやかな秋晴れの中、秋季彼岸会および門信徒総追悼永代経法要が勤まりました。

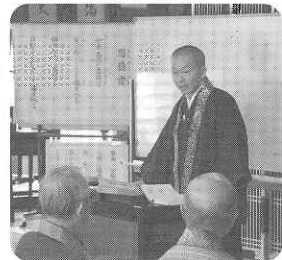
一同で阿弥陀経をお勤めした後、ご法話を拝聴。ご講師は三原市大和町、浄楽寺の栗原一乗師でした。ご讃題に「本願力に遇いぬれば、むなくすぐる人ぞなき。功德の宝海満ち満ちて、煩惱の濁水へだてなし…」という親鸞聖人のご和讃をひかれて、「お聴聞」の大切さをお話いただきました。

一口に「浄土」といっても、例えば「東京」のように現実世界にです。そのとき、「浄土真宗を信じて何かいいことがあるの?」と聞かれ、答えに困ったそうです。他の宗教では病気が治る、交通事故にあわれないなど、目先のご利益を説くことが多い中、浄土真宗ではそうは説かないからです。

この質問は先生にとつての僧侶としての転機となったとのこと。では、浄土真宗を信仰して一体どんないいことがあるのか、そのことについてお話しいただきました。結論としては、み教えに遇うと私のものの見え方が変わる、ということ。おかげさまの世界に気づくと、今まで「あたりまえ」

存在するものではありません。実は浄土に生まれたいと願う心の中にあらわれてくる世界なのです。

これを「願生心の上に開かれてくる世界」といいます。すなわち信心があつてこそ成り立つ世界です。しかしながら、そうはいってもいざ死を前にするとどんな振る舞いをするかもしれない私たちです。そんな私たちでもそのまま救い取つて下さるといわれるのが阿弥陀如来です。しっかりとお聴聞を重ねて信心をばくくみながら、心の中に「お浄土」をもった生活を送っていききたいものです。



見方が変わります。また、過去のことも、見方が変わればありがたいこととして受け止められるようになります。妙好人と呼ばれる人たちは、このようにして人生を豊かなものにしていかれました。暑い中、参拝者は少なめでしたが、みなさんよいご縁に出会えたと喜んで帰途につかれました。

やさしい仏教講座

令和二年の予定

住職による「やさしい仏教講座」の来年の予定です。『なるほど浄土真宗』というテキストに沿って進めています。夜席ですが、お誘い合わせのうえ、お気軽にご参加ください。毎回十九時半より。

やさしい仏教講座

令和2年の予定

第3回	2月6日(木)
第4回	4月9日(木)
第5回	6月11日(木)
第6回	8月22日(土)
第7回	10月4日(日)
第8回	12月10日(木)

傳大師脇童子像修復

経蔵に安置してある傳大師脇童子二体の修復が終わり、七月下旬に京都、井澤仏具より戻ってきました。修復

前には一体は両手首が折れ、着物の帯の結び目が剥落するなどいたるところに破損がありました。修復しましたが、すべて修復されました。



↑修復前 修復後→

平成三十年七月豪雨一周忌法要

七月十二日(金)十四時より、本願寺広島別院にて昨年の豪雨災害の一周忌法要が勤修されました。



ご門主さま
ご臨席のもと、第四連区(安芸、備後、山口、山陰、四州の各教区)合同で、遺族、僧侶、門信徒等、約二五〇名が参拝。

備中里組からは四十八名、当寺からは藤井祐三、斎藤裕、榊平敬子の各氏と坊守が参列しました。開会にあたり「このたびの災害



恒例のサマースクールが七月二十三日に開かれました。今回は残念ながら残念ながら日帰りでした。参加の小

で、たとえ別れがあっても阿弥陀さまがいらっしゃることを忘れないでほしい。南無阿弥陀仏の念仏を唱えましょう」とのご門主のお言葉がありました。そして一同で『阿弥陀経』をお勤めました。

次いで呉市安浦町市原地区の中村正実自治会長から被災地の現状報告がありました。濁流に流され、二十四世帯五十八人の住民が十一世帯二十二二人になったこと、農家の多い地区でほとんど農具を流されたこと、しかし住職も含めた本願寺からのボランティアが連日助けてくれありがたかったとのこと。

安芸教区の朝枝曉範師の記念布教の後、全員で恩徳讃を唱和して散会となりました。

名(男子二十五名、女子十五名)でした。長谷川憲章師をはじめ若手の小滝世雄、久本晃真の両師にご指導にお越しいただき、食事等は仏教婦人会のご協力をいただきました。

仏前での作法を習った後は、四班に分かれてゲームなどをして楽しい一日を過ごしました。

帰り際には、生江浜の赤田保夫さん提供の真っ赤に熟れたスイカ

水島公民館で一行が

当寺を訪問

九月十四日午後、水島公民館より二十五名が、「白印ゆかりの寺」ということで当寺を訪ねて来られました。水島中学校区人権学習推進委員会研修視察とのことです。

一同でおつとめの後、住職が浄心寺の由来と白印さんについて簡単に説明し、その後庫裡にあるいくつかの白印の絵を見たり、放生池の亀を見たり、境内を散策して帰られました。

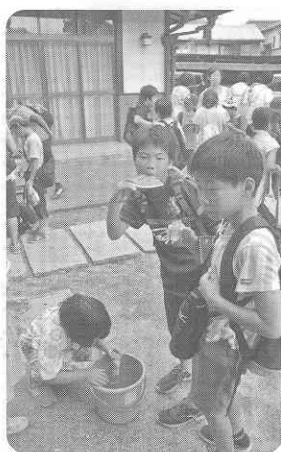


を、お迎えの保護者の方々と共にいただきました。

例年と比べると物足りない気もしましたが、体を使ったゲームを

配布冊子をいただくと、「人権学習研修視察、地域と先人に学ぶ」慈悲の心 津田白印・渡辺元一・高橋慈本の足跡を訪ねて」として、午前は悲眼院、午後は白印ゆかりの地として本林寺(甘露育児院)跡、浄心寺、岡山龍谷高校を訪ねて回られたようです。よく下調べをした上で、現地での研修をされた様子が分かりました。

後日お礼状をいただき、「浄心寺でのご住職のお話や見学により理解を深めることができました」とのことです。



たつぷりして、午後には寝転がってしまいうちが出るくらいぐったりして帰途につきました。夜はぐすり眠れたことでしょう。

ごあんない
新春の
つどい

1月15日(水)
正午より
参加費 2,000円
締め切り 1月10日

どうぞお問い合わせ
ご参加ください。

報恩講

お斎のご案内

12月7日(土)正午より

仏教婦人会のみなさんが心をこめてお斎(おとき=仏事での会食)を調製していただきます。
ご遠慮は無用です。お誘い合わせでお席にお着きください。

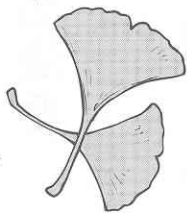


九月十四日、秋の彼岸会をひかえ早朝より本堂、境内の清掃をしました。残暑のきびしいなか四十名のご協力ですっかりきれいになりました。

清掃奉仕

仏婦コーナー アソカの園

九月十九日、文化等同好会のメンバー十三名は、神島の天神荘を慰問。「南国土佐を後にして」「長良川艶歌」など日頃の練習成果を披露。そしてリクエストのあった「北国の春」「幸せのワルツ」は入所者と一緒に歌い共に楽しい一時が持てました。また水原愛子さんのどじょうすくい拍手喝采でした。



デイサービス 天神荘慰問

2020年(令和2年)年回表

年回忌	往生年	主な出来事
1 周忌	平成31年 令和元年	全国で地震、豪雨などの被害続出。
3 回忌	平成30年	西日本豪雨。死者220人超。
7 回忌	平成26年	御嶽山噴火。消費税5%から8%へ。
13 回忌	平成20年	小林誠・益川敏英・南部陽一郎3名がノーベル物理学賞。
17 回忌	平成16年	新紙幣発行(1万円札福沢諭吉、5千円札樋口一葉、千円札野口英世)。
25 回忌	平成 8年	病原性大腸菌「O-157」による食中毒が全国各地で発生。
33 回忌	昭和63年	世界最長の瀬戸大橋が開通。
50 回忌	昭和46年	アポロ14号、月に着陸。

該当のお方には別途お知らせいたしますが、遺漏するもありますので、ご留意、ご確認の上、ご法要の日時を早めにご相談ください。



みんなそろって
いただきます

サマースクールでは十三名の仏婦会員がお手伝いしました。昼食のカレーライス作りに配膳、かたづけ、また最後にスィカを切って子供たちに食べさせました。子供たちが帰った後は本堂や庫裡を掃除し、ピカピカになりました。

サマースクール協賛

七月二十三日(火)

予告 ダーナバザー ご案内

令和2年
4月19日(日)
浄心寺にて開催

物品の提供をお願いします。

さいでしたが、残念なことに去る九月二十四日還浄されました。深い哀悼と長年のご苦勞に感謝致します。



追悼
三宅恭江さん

三宅さんには、平成十五年以降継続して役員として力を尽して下

門信徒の広場

5/24~27

門徒推進員
中央教修を受講して



松田 勝由
(法名・釋勝寛)

本山での中央教修の事前には、備中里組の第七期連続研修会を平成二十九年から二年間かけ、十七名の仲間とともに受講しました。

そこでは、浄土真宗とは自身が死後の世界を悟ることの修行ではなく、現在の自分の進むべき道を、聴聞や研修によって開いていくものだ、と学びました。連研で触れたみ教えをこの際徹底的に学んでみたいと思い、中央教修を受けることを決心しました。

同期の北川さんと二人で本山の研修会場に到着。全国より四十八名の参加がありました。事前の案内が十分でなかったため、受付で教修費用の点で多少混乱しましたが、何とか受付を済ませました。

三泊四日の教修で、朝五時四十五分から午後七時までのスケジュール。携帯電話は禁止、禁酒、禁煙。宿泊は見知らぬ者同士の四人の相部屋で、まるで学生時代の再

現でした。

教修は七班

編成で各班に
二名の僧侶と



北川 嗣雄さん
(法名・釋眞嗣)

門徒推進員の先輩二人(私のところは東京と鹿児島から)がつき、話し合い法座を中心に研修しました。テーマはみ教えからの気づき、御同朋の社会とは、救い、浄土などについてで、そのほか全体講義や個人面談、仏教讃歌の時間などがありました。次々に研修があり、時間に追い回されました。

クライマックスは最後の個人の決意表明でした。真つ暗にした安穩殿講堂で、ローソクの灯りだけで照らし出された阿弥陀如来像の前で、それぞれの門徒推進員としての決意を述べました。「くしように思います」ではなく「くします」と強い決意を述べるようにとの指導を受け、十回以上練習して臨みましたが、厳粛な雰囲気にもまれ、あがってしまいました。

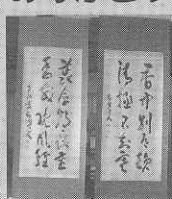
今後は浄心寺の門徒推進員として、お寺と門信徒との懸け橋となるべく、尽力していきたいと思えます。死んでからではなく、生きていくうちにみ教えに出会う大切さを痛感しています。特に、若者が集えるお寺をめざしたいと考えています。

中組 備里 「御同朋の社会をめざす運動」 推進協議会

十月七日十四時より、笠岡市小平井の地福寺にて標記の研修会が開かれました。今年のテーマは「貧困問題に学ぶ」、講師は坂原英見師。浄心寺からは住職、前任職、藤井祐三氏、松田勝由氏が参加。まず坂原師より、本山が重点プロジェクトとして掲げる「子供の貧困」について説明を受け、三班に分かれて話し合いました。

最近の貧困は見た目には分らないことが多いとのこと。服装や持ち物も他の子とは変わらないけれど、食事がきちんととれていなかったり、虫歯が放置されているなど実は健康状態が良好でない場合がある等。こういう子に対してお寺でできることはないのか、ということ話し合いました。

ありがとう



樋守地区
小田明さん
白印の書の
軸を一对寄贈

地区委員さん交替

大磯中・西地区

大石彦太さん(往生に伴い、妻の節子(さだこ)さんが引き継いでくださいます。どうぞよろしくお願いたします。

還 浄(げんじょう)

(敬称略)

渡邊 博

8月21日 88歳

浜田南地区委員としてまた事務局委員として、寺門の発展にご尽力してくださいました。
法座にも積極的にお参りされるなど、お聴聞を喜ばれた篤信のお方でした。

大石 彦太

9月12日 94歳

大磯西地区委員としてお世話していただいております。

藤井 照子	6	23	吉 浜
加治左吉秋	6	23	城見台
大嶋 則江	6	25	川崎市
上田マツコ	7	1	西大島
白神日出男	7	17	一番町
叶丸 孝幸	7	21	浅口市
藤井 芳夫	7	23	生江浜
北村 逸美	7	30	生江浜
藤井 裕久	8	12	福山市
栗田 繁光	8	14	富岡
福井 茂子	8	18	浅口市
田片 昭三	8	18	吉 浜
高橋 秀子	8	30	福山市
高橋亜弥子	9	8	新横島
藤井智恵美	9	13	生江浜
小林登喜子	9	22	吉 浜
水原 順治	9	22	入 江
三宅 恭江	9	24	吉 浜

浄土真宗



教えと

そのあゆみ

私たちの宗門(5)

所依の聖教

仏教には八万四千の法門がある

といわれ、経論釈を集めた大蔵經(二切経)をみてもわかるように、

実に多くの經典がありますが、そのなかで「浄土真宗」の教えを直接に説きあらわされたものとして

親鸞聖人がよりどころとされたの

がつぎの『浄土三部経』です。

仏説無量寿經 上下二巻 康僧鎧訳

仏説観無量寿經 一卷 墨良耶舎訳

仏説阿弥陀經 一卷 鳩摩羅什訳

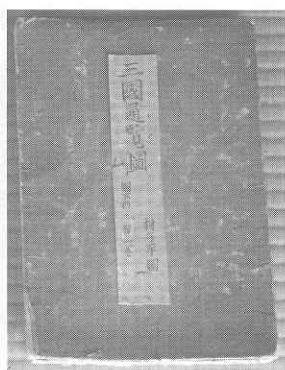
今回からこの三つのお経について解説していきます。

『仏説無量寿經』

三部経のなかでも最も大部なものですから、大無量寿經と呼ばれ、略して大經とも大本ともいわれて

浄心寺の法宝物

その 26

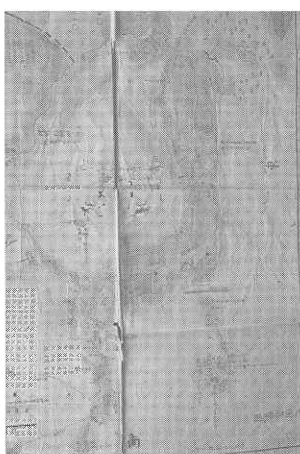


全五巻 彩色
縦27.5cm 横18.5cm

「三國通覧圖」「琉球圖」「無人嶋圖」「朝鮮圖」「蝦夷圖」

これは、いわゆる「法宝物」とはいえませんが、興味深い書物です。

天明五年(一七八五)林子平により書かれた江戸時代の地理書、経世書です。日本に隣接する三國、朝鮮・琉球・蝦夷と付近の島々についての簡単な解説と地図五枚からなっています。



います。

この大經の訳本は、古来「五存七欠」といわれて十二種の翻訳があったと伝えられています。宗門では曹魏の時代に康僧鎧による訳のものを依用しています。

さて、このお経にはつぎのようなことが説かれています。

法蔵菩薩が世自在王仏のもとで、仏になるための修行をしていた。

兆載永劫という長い間、いろいろの仏の浄土を見学し、よくよく考えた末、もっともすばらしい

浄土を建設しようとして、四十八の願をたてた。そしてこれを実現

本書は『三國通覧輿地路全図』、『琉球全図』、『無人島之図』、『朝鮮全図』、『蝦夷国全図』からな

っています。地図の正確性に乏しく、特に本州、四国、九州以外の遠方で測量のむずかしい地域ではかなり杜撰に描かれているとい

われています。

林子平…江戸後期の経世家。高山彦九郎・蒲生君平と共に「寛政の三奇人」の一人。著書の『三國通覧図説』『海国兵談』が幕府の禁諱に触れ、版木を没収され、禁錮刑に処せられた。蟄居中、その心境を「親も無し、妻無し子無し版木無し、金も無けれど死にたくも無し」と嘆き、自ら六無斎と号した。

するのための修行をはじめた。それは永劫というこれまた長い長い間、苦しい行を積み重ね、そしてようやく願いを成就した。そして阿弥陀仏となり、うるわしい浄土を建設することができた。法蔵が仏になったのは、今から十劫というはるか以前のことである。

※兆載永劫の苦行…中国で数の名称は、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、百、千、万、億、兆、京、垓、秭、依、溝、澗、正、載の二十三字である。兆は十五字目、載は二十三字目の名称で、兆載永劫は長い時間をいう。

門前の放生池に黄の葉が映る頃となりました。仏前に手を合わす仏の子たちのサマースクール、虫干し法座、秋季彼岸会、永代経法要、7月の豪雨災害追悼法要等のご報告です。今後の予定として、

報恩講、やさしい仏教講座等をご案内する第129号をお届けします。今後とも法要、法話のご縁に遇

つてお聴聞に励まれますように。

除夜会・修正会

おおみそか 11時40分より

編集後記

(編集委員 U.Y.)